

# 栃木県中学校長会報

第115号

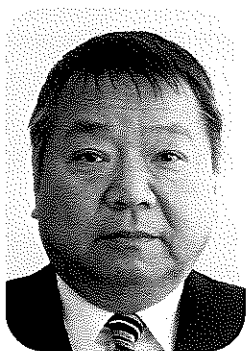
発行

平成26年2月6日

編集

栃木県中学校長会広報部

## 平成25年度を振り返って



栃木県中学校長会長  
宇都宮市立一条中学校長  
久保 徹

今年度もあとわずかとなり、卒業や進級、次年度の学校経営計画作成などに向けて、いよいよ本年度も大詰めに来ているものと思います。今年度も、大震災の復旧・復興、原発事故対応、地震や竜巻に加

え、大雨や洪水等の自然災害、いじめ・体罰への適切な対応を通しての危機管理に心血を注いだ学校経営に、日夜果敢に取り組みながら、生徒の「生きる力」の育成を目指した中学校教育を推進されている160名の会員の皆様の熱意と努力に感謝するとともに敬意を表します。このような中、7年後の東京オリンピックが決定し、生徒の夢や希望が膨らむようになり、今後の教育にも大きな力となることでしょ

う。今年度の栃木県中学校長会の活動は、総会並びに研修会（5月）、理事研修会（4・7・11月）、研究大会（9月）、各専門部研修会、県教育長と校長会長との懇談会（5月）、県教委と小中学校長会との教育懇談会（8月）、県教委・県立高等学校長会との懇談会（10月）、関中群馬大会（6月）、全中福井大会（10月）、理事・協議員研修会（2月）とスムーズに進行しています。

関中群馬大会で宇河地区校長会は「想像力と使命

感に満ちた教職員の育成」の発表を、県中研究大会で、塩谷地区校長会は「生き方の自覚を促す道徳性の育成」、小山地区校長会は「小中一貫教育を目指した学校経営」を発表しました。どちらも、地区校長会の組織を挙げて研究がなされており、研究主題「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備え、社会において自立的に生きる生徒を育てる中学校教育」に迫る素晴らしい発表でした。今後も地区ローテーションにより研究が進む中で、中学校教育が伸びていくことを期待しています。

県教育長、県教育委員会との懇談会では、「①現状を踏まえた教職員人材確保と教職員配置の改善②県立高校入学者選抜における特色選抜の円滑な実施と成果と課題に関する情報の共有③部活動の教育的意義の再認識と制度的諸問題の解決に向けた取り組みの強化」などについて、相互理解を図りながら、その対策・対応について話し合いました。

県教委・県立高等学校との懇談会では、本年度から始まった特色選抜について、今後を含めての成果と課題の共有に向けて、熱心な話し合いをしました。さらに、11月理事研修会において、改めて県教委に特色選抜の説明を要請し、地区会長への周知を図りました。

会員の皆様におかれましては、今年度、中学校教育の振興を図るという本会目的達成のためにご協力いただきまして誠にありがとうございました。また、組織として活動することが、国や行政に対して大きな力となることを再認識し、今後の活動を行っていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

## 事務局だより

今回は関東甲信越地区中学校長会（略称：関地区中学校長会）について紹介いたします。

関地区中学校長会は1都9県で構成され、年間に3回の理事会（各都県2名の理事が参加）・2回の事務局長会（各都県の事務局長1名が参加）、また必要に応じて本部役員会が開催され、関地区中学校長会の事業や運営の在り方について協議します。

関地区中学校長会研究協議会は年に1回、東京都

を除く9県持ち回りで開催されます。（東京都は10年ごとに周年事業として全日中東京大会を開催します）関地区研究協議会の栃木大会は平成30年度に当たります。

関地区中学校長会の事務局は9県持ち回りで関地区研究協議会の次期開催県が当たり、理事会や事務局長会等の企画・運営、参加者の旅費支給・宿泊の手配などに携わります。栃木県は平成29年度に関地区の事務局を担い、その年度の県の会長が関地区の会長を兼ねます。（事務局長 後藤 明）

## ❖❖❖ 県教委との教育懇談会 ❖❖❖

広報部長 片桐 晃  
(宇都宮市立姿川中学校長)

平成25年8月8日(金)、宇都宮市内のホテル ニューイタヤにおいて、「県教委と小・中学校長会との教育懇談会」が開催されました。

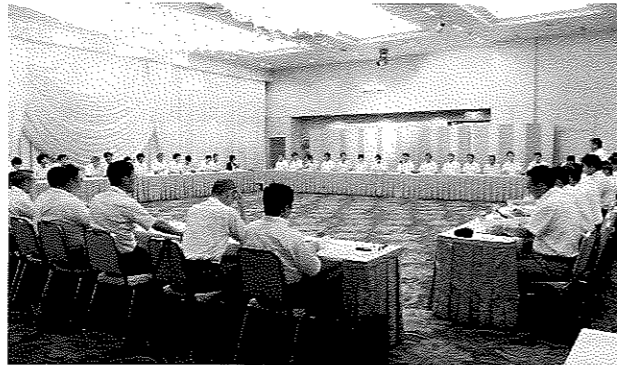
小学校長会19名、中学校18名で臨み、県教委側は瓦井千尋教育次長様はじめ24名の関係者に出席いただきました。中学校長会の久保 徹会長、瓦井千尋教育次長の挨拶の後、総務部長の高橋哲也宇都宮市立宝木中学校長が提案事項を説明しました。

### ○ 中学校長会提案事項

- 1 現状を踏まえた教職員人材確保と教職員配置の改善
  - (1) 新学習指導要領実施による授業時数の増に対応できる教員の加配
  - (2) 正式採用教員の確保  
(欠員補充の解消、臨時的任用教員経験者の採用、学校図書館司書教諭の専任化)
  - (3) 新規採用事務職員等の円滑な勤務を支援する取組の推進
- 2 部活動の教育的意義の再確認と制度的諸問題の解決に向けた取組の強化
  - (1) 勤務時間外での部活動指導の現状把握と対応

- (2) 部活動顧問への諸手当、地域指導者派遣等、部活動充実のための基礎的條件の整備
- 3 教育的諸条件の整備拡充とその推進
  - (1) 県立高校入学者選抜における特色選抜の円滑な実施と成果と課題に関する情報の共有
- 4 その他
  - (1) 教職員の精神疾患の予防と対策の充実
  - (2) 中体連・中文連への補助の継続
  - (3) 研修・出張旅費の確保と旅行命令に関する校長の裁量権の維持

これらの提案事項に対して、県教委側からは各担当者が一つ一つの事柄について、本県の現状や展望を示しながら、今後も国への要望を鋭意努力していくことや財政の許す限り努力する旨回答があり、有意義な懇談会となった。



## 県教委・県立高等学校長会との懇談会

進路対策部長 隅内 和 男  
(上三川町立上三川中学校長)

平成25年10月8日(火)、とちぎ青少年センターにおいて県教委、県立高等学校長会と県中学校長会(正副会長、進路対策部員が出席)との懇談会が開かれました。次のような要望・提案をしました。

### 1. 一日体験学習について

- (1) 当日の出欠確認を、生徒個別にして欲しい。
- (2) 詳細について、各高校のホームページに掲載されるが、見つけやすい場所への掲載をお願いしたい。
- (3) 各中学校からの申し込みに対して、受け入れ確認メールを返信していただけるとありがたい。

### 2. 入学者選抜の方法について

- (1) 一般選抜について
  - ① 細則の説明会を可能な限り早くして欲しい。
  - ② 合格発表メールを配信して欲しい。
  - ③ 合格発表時の県のホームページへのアクセスで、接続障害がおきないように配慮して欲しい。

- (2) 特色選抜について
  - ① 合格内定のメール配信時間を示していただきたい。
  - ② 資格要件の表現を生徒に分かり易くしてほしい。
  - ③ 志願理由書の扱いの表現を統一してほしい。
3. 募集方法について
  - (1) 過年度生の出願は、本人の責任で提出する手続き方法に改めて欲しい。
  - (2) 学区制の廃止も含めた、学区の見直しをお願いしたい。
  - (3) 特色選抜の定員割合から、矢板市・旧氏家町に一般選抜で受検できる普通科の設置をお願いしたい。
4. その他について
  - (1) 特別支援学校には学区の縛りを緩めて欲しい。

県教委、県立高校長会、県中学校長会が、それぞれの役割を果たしながら、とちぎの子どもにより良い成長を目指していけるよう、相互の意思を率直に交換できる機会としてこの会を発展させていきたいと考えます。

## 地区校長会だより

### 那須地区中学校長会

本会は◎大田原市(大田原市・湯津上村・黒羽町)◎那須町◎那須塩原市(黒磯市・西那須野町・塩原町)の3市町〔( )内は旧市町村名〕23校の中学校長が、那須地区小中学校長会のもと「中学校長部会」という名称で活動しています。

しかしながら、生徒数の減少に伴い4年前に4中学校が統廃合で1つに、また近い将来統廃合予定の中学校があり会員の減少が悩みです。

そんな中ですが、地域の特性を生かした学校経営をそれぞれの校長が実践し、校長会としての研究は研修部の計画のもと、23校が一つの研究組織として研究を重ねています。

昨年度は、関東甲信越地区中学校長会研究協議会新潟大会「8分科会経営課題」において、研究実践発表をしてきました。現在は平成26年度栃木県中学校長研究大会発表「条件整備」に向けて、新たな研究主題で研究を推進しているところです。

### 南那須地区中学校長会

#### — 難問にも協働の精神で —

本会は那須烏山市、那珂川町の5校により組織しております。平成25年度は新たなメンバーが1名加わりました。八溝山麓の西を流れる那珂川、荒川の流域を通学区とする風光明媚で人情味あふれる地域性です。

本地区中学校の共通した課題は学力の向上です。学力学習状況調査で代表されるような学力をどのように高めていくか、大きな課題となっています。そのことに加えて卒業生の他地区への流出という問題もあります。その結果、地区内の県立高校への進学率が低下してきて地区から県立高校が無くなるのではないかと危機感を抱いております。この超難問に私たちは協働の精神で立ち上がりました。

両市町の教育委員会の御指導、御協力を得、県立高校の校長先生、那須烏山市・那珂川町当局、小学校長会等関係各所に働きかけ、懇談会を持ちました。現状への危機感、そしてその対応策、話し合いは教育行政だけでなく両市町の政策として課題にしてい

本地区の自慢は何といっても研修意欲旺盛で、全中学校長が研究主題「学校組織の活性化を目指して」～教職員の資質向上のための実践を通して～に向け、校長の関与や視点を明確にした実践的な研究を進めています。

今年度は4月・7月・11月に研修会を開催し、そのうち7月の中学校長部会研修会を実施したあとは、今年3月に退会した先輩校長をお迎えし、一泊での教育懇談会を実施していることも本会の特筆すべきことです。11月は、那須地区小中学校長会全体研修会の中で、中学校長部会に小学校長も参加していただき、貴重なご意見をお聞きし、その後中学校長全員での協議を実施、研究内容をさらに深めることができました。

このように那須地区中学校長会は小中一体となり、那須地区教育の伝統を継承し、時代にふさわしい教育の創造を目指した取り組みをしています。

[大田原市立若草中学校長 谷田部日出三]

いただきました。

折しも今年度の県立高校入試は特色選抜が実施されるとあって中学校と県立高校との情報交換は密に行われております。そのことに併せて、県立高校の校長先生、進路指導担当が中学校を訪問し生徒の学習状況や保護者への説明会など、より一層中高連携が深まったように思います。先日は高校の授業参観でタブレット型コンピュータを使った理科の授業を見学させていただきました。今度は中学校の授業を高校の先生方に参観していただく計画を立てています。

学力の低下と人口の流出、そして県立高校の統廃合。校長として我が校の学校経営にとどまらず地域を挙げて子どもたちの教育を考えていかなければなりません。このような地域性が本会の連携を深めているのです。

[那須烏山市立荒川中学校長 吉成 伸也]

## 上都賀地区校長会

本地区校長会は、併設校3校を含む25校の校長で、生徒数5名の極小規模校から851名の大規模校という規模の違った学校の校長で構成された校長会です。

また、今年度は5名の女性校長が会に加わり、やわらかい雰囲気と華やかさがあります。

校長会の研修は5月、10月、2月の3回実施しています。本地区が平成26年度関東甲信越地区中学校長会研究協議会茨城大会で本地区が発表することになっており、昨年度から研修内容も発表に向けての取り組みを中心に進めてきました。

今年度の研修内容は、以下の通りです。

### (1) 第1回研修会(5月31日)

毎年、各校長の学校経営の重点化構想と評価を持ち寄って、各校長の学校経営の方針や努力点、具体策などについて意見交換を行い、校長の学校経営への思いや工夫ある取り組みを共有ができ、年度スタートにふさわしい研修となっています。

### (2) 第2回研修会(10月11日)

地区内中学校において特色ある取り組みを推進し

ている学校や研究校を会場にて研修しています。

今年度は人権教育推進校として文部科学省の研究指定を受けた鹿沼市立栗野中学校の先生に研究の取り組みを発表してもらい、研修を深めました。

### (3) 第3回研修会(2月14日)

1年間の研修の総括として教育事務所長の「地区の学校教育の現状と課題」と題した講話で締めくくっています。これまでに、地域の歴史や自然、特別支援教育に関する内容や、県教育委員会古澤教育次長(現教育長)をお迎えして講話をいただくなど多くの方々からお話を聞く機会となっています。

研修会終了後には、年2回懇親会を実施しています。特に、2月の研修会終了後は退職される先生を囲んでの送別の宴を兼ねた懇親会を宿泊で実施しています。本音で話ができる校長会、お互いに磨き合い、高め合い、校長として力をつけていける会を目指し、これからも校長会としての組織力を高めていきたいと考えています。

[大沢中学校 齋藤 孝雄]

## 私の学校経営

### 居がいのある学校づくりを目指して

上三川町立本郷中学校長 鶴見 郁

『居がいのある学校』は、学校経営の三本柱の一つです。歴代の校長先生方の経営成果を更に前進させるべく、微力を尽くしているところです。

現在実践している事を二つほど述べます。

#### 1 トイレに花一輪

教員生活の殆どが小学校勤務の私ですが、唯一5年間だけ中学校で勤務しました。小山市の小学校から現任校に転任してきた時の荒れ様は、筆舌に尽くし難いものでした。眉ぞり、短ラン、ボンタンズボン、授業崩壊。信じられない現実が在りました。しかし、生徒指導主事という役目柄、自分のクラスだけを治めて安穩としているわけにもいかず、他学年や他学級に乗り込む日々が続きました。通常の授業が行えるようになるまで、3年間位かかりました。

中学校の校長と聞かされた瞬間、当時の悪夢が蘇り、何か「手を打たねば」と考えたのが『トイレに



花を』です。かつて、荒れの温床であったトイレに小さな花でもあれば……。そんな思いで、各階の男・女トイレに飾ることを日課としています。

#### 2 かかと揃え

「学校は無理してがんばることを学ぶところです」私の好きな言葉です。これまで担任してきた児童・生徒たちにも、靴箱・机の整頓から学校生活が始まると伝えてきました。昇降口を入った瞬間から家と学校とは違うという意識を持たせたいと思っています。と同時に、担任が朝ちょっと靴箱を覗くだけで、生徒の状態をつかむことができるのではというねらいも……。『かかと揃え』は、気配りをしないとできないことです。朝、何かトラブってきた生徒、何かで悩んでいる生徒。毎朝の靴の様子から見えてくることも案外多いと思っています。その「オヤッ」を鋭く感じ取れる先生になって欲しいとの願いもそこに在ります。



## 黄金の3日間

下野市立国分寺中学校長 新村 純一

本校では、入学式後の3日間を「黄金の3日間」と呼び、「生徒の心のコップが上向きになっているこの時期に教師の思いを届けよう！」と考え、第1日目に行う新年度オリエンテーションを非常に重要視している。中心となる生徒指導主事は、この日の1時間余りのために長い時間を掛けて話す内容の台本を作り、VTR等の資料を準備する。当日は、新入生を早めに体育館に入場させておき、2・3年生が黙って静かに入場してくる様子を見せるところから集会が始まる。1年生に、「2・3年生は何も言われないのに黙って入場しきちんと整列している。国中では率先垂範を大切にしている。」と話す。また、人間にとって一番大切なものは何か？周りの人と話してごらん。」と全校生徒に問い掛け、何人かの生徒に発表させる。コップは上を向いていないと水が入らないという実験を見せ、人間にとって一番大切なものは「素直な心」と結ぶ。その後も、なぜ、

## 真岡中学校の学校経営

真岡中学校長 石川 栄 壽

本校の教育目標は「1自ら学ぶ生徒」「2心豊かな生徒」「3たくましい生徒」です。平成13年度に教育目標制定委員会を立ち上げ、「生きる力」を育むという理念に添った目標に改訂されました。今年度も、学校経営の方針は「教育は人なりを信条とし、命と時間を大切に教育を推進する」を柱にしました。

子どもは、家族や教職員など周りの大人の姿を見て学んでいきます。さらに、学校での集団生活の中で友人たちと関わり、思いやりや協力、我慢など将来の社会生活で必要となるものを身に付けていきます。本校の教職員は生徒たちの手本となり、情熱と愛情をもって生徒たちに指導・援助できるよう努めています。特に、「生徒のいるところに教師あり」を合い言葉にして生徒たちに本気で関わっています。

また、失うと二度と戻らない「命と時間を大切に教育」の実践については、周りの人との関わりを大事にするということで、「あいさつをする。」

集団で生活するには約束が必要なのか等、いじめ防止しめめいくつもの質問を投げ掛け考えさせる。ある年は、能代高校バスケットボール部の練習のVTRを見せ、「なぜ日本一になるの？」と問い掛けたこともあった。最後に、合唱コンクール、運動会、学校祭や卒業式等の学校行事のVTRを見せ、「なぜ、生徒は涙を流しているのか？」と問い掛け発表させる。そして、「感動」「感化」「本気」「追究」等の言葉でまとめ、「感動の卒業式にしよう！」で締めくくる。この後は、学習、自問清掃、交通指導について各係から話をする。終了後、各教室に戻り、各学級で係決めを行い、授業開始の準備をする。そして、3日目には、新入生の靴箱の靴も靴箱の縁に沿ってきちんと整頓されるようになる。

このように、本校では年度初めや学校行事の前に行ういろいろなオリエンテーションが生徒の本気を引き出し、よりよいものを追究する心を育てている。そして、感動し感化されて下級生が育っていく。こんな生徒・教師に囲まれて感謝の毎日である。

「時間を守る。」「学校をきれいにする。」の三つを全校を上げて実践しています。この具体的な目に見える活動をとおして、自らの手で落ち着いたきれいな真岡中学校をつくり、自分や周りの人の「命や人権」、そして「時間」を大切にしながら、一所懸命に生活していこうと呼びかけています。これに応え、生徒たちは「一人は一校を代表する」の校訓を意識して生活しています。

また、教職員には教職員評価の目標・評価を作成する際に、この内容をいずれかの項目に設定するようにしています。自分はどんな場面で意識して指導していくかを考えながら実践しています。

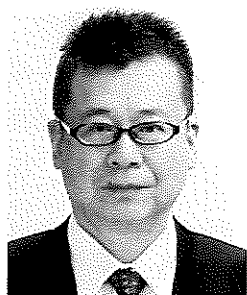
さらに、生徒の自主性・自治的活動である生徒会活動や部活動の活性化にも力を入れ指導しています。特に、全生徒が活動する委員会活動の具体的な活動を工夫しながら進めています。

どの学校でも実践している当たり前の取組ですが、こうした日々の積み重ねにより教育目標の具現化を図り、生徒たちが将来、社会の中で自己実現できるよう、その基礎づくりができればと考えています。

# 新任校長の一言

## 新任校長として

足利市立第一中学校 出口 伸 雄



本校区は、足利市のほぼ中心部に位置している。中央部を東西に県道が走り、商店街が立ち並び、交通量が多い。また、学校、寺社、社会福祉施設が多く、教育活動を進めるにあたって大変ありがたい

地域である。学校の周辺は、三方を樹木の生い茂る丘陵に囲まれ、自然環境に恵まれている。地域の住民は、教育に関心が高く、非常に協力的である。

本校は、これまで長く継承されている『三本松の精神』（高く・強く・美しく）を指標として、未来へ向けて逞しく「生きる力」を具えた生徒の育成を目指してきた。平成23年4月からは、足利市教育委員会から小規模特認校（足利市内3校）として指定された。そのため、土曜日授業を行うなど特色ある教育活動を展開し、生徒数の増加を図り、生徒の適性を生かした教育活動を推進している。

本年度、小規模特認校3年目を迎え、次の3つの方針のもと、学校経営を進めていきたいと考えた。

1つ目は、「特色ある学校づくりの推進」である。小規模特認校として、「土曜日授業」の内容や方法を工夫・改善し、教育活動全体を通しての道徳教育や福祉教育の充実を図る。

2つ目は、「開かれた学校づくりの推進」である。地域における校外活動や地域の方々による外部講師など地域の教育力を学校に取り入れ、学校公開や授業公開を積極的に行う。

3つ目は、「安心・安全な学校づくりの推進」である。教育環境を見直し、学びに集中できる環境づくり—わかる授業を展開し、気軽に相談できる教職員と生徒との信頼関係づくりを構築する。

このような学校経営方針のもと、教育目標『創造性に富み心身ともに健康で豊かな心情をそなえた生徒の育成』の実現に向け、地域を大切に、地域の方々に感謝の心を持ちながら、地域に根ざした教育を進めていきたいと考えている。

## 新任校長として

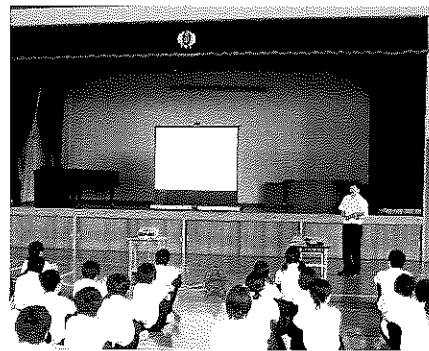
藤岡第二中学校長 石川 優一

本校は栃木市の南の端に位置し、かつて巴波川の回漕業で栄えた部屋地域の歴史や文化、渡良瀬川遊水地等を見晴らす豊かな自然を風土とする74名の小さな中学校です。そのため、通ってくる生徒たちは素直で明るく、学校全体がほのぼのとした雰囲気になっています。新任校長としてこのような学校に任ぜられた幸せをつくづく感じます。

「自ら学び 生き生きあいきつ 心に感動」という学校スローガンを前任の校長からそのまま引き継ぎ、朝会の講話や学校だよりで使わせてもらっています。まさに本校にふさわしいわかりやすい合言葉だと思っています。考える力になるような学力、社会での人間関係の土台となるあいきつ、そして、学校ならではの仲間で作る感動の大切さを生徒に伝えていきたいと思っています。

月1回の朝会講話は、前任校の校長を真似て、パワーポイントを映しながら話を工夫しています。大きな字や写真で、少しでも生徒たちの印象に残れば

ありがたいと思っていますが、まだまだいい話はできません。これはまた別の退職された先輩校長からうか



がった「いつもメモ帳を懐にして、折りに触れて話のタネを記録しておくこと」ができていないからだと思います。

放課後、顧問の教師がグラウンドへ出て行くと、どの部からも「〇〇先生、こんにちは」という声が聞こえてきます。いつからか本校の伝統として継承されている習慣だと思いますが、「〇〇先生」という名前が入るだけで、どれだけ教師のやる気を引き出してくれることか。というわけで、ときどき私も校庭を回ってみます。「校長先生、こんにちは」という生徒たちの声をこそばゆく感じながらも。